

Bツールの活用した転倒・転落データの可視化と現状把握の有効性 それにより見えてきた課題



久保博文 ◆ 王子総合病院 診療録管理センター副センター長

要旨：患者の転倒・転落は、医療機関にとって重要な課題である。本稿では、インシデント報告分析支援システムのデータを、Bツールを活用して現状把握と予防に役立てる取り組みについて述べる。

はじめに

我が国は超高齢社会となり、それに伴い入院患者に占める高齢者の割合が上昇している。王子総合病院（以下、当院）においても、2023年の入院患者のうち60歳以上の割合は約80%を占め、80歳以上の患者も25・6%で、2022年と比べると3%増加している。

このような状況の中、国際的な病院機能評価であるJCI（Joint Commission International）において、特に重要項目として国際患者安全目標（International patient safety goals）が定められ、6番目に「転倒・転落による患者の負傷のリスクの低減」が挙げられている。また、2018年4月に開催された第3回閣僚級世界患者安全サミットでは、「医療及び社会的介護のあらゆる段階において高齢

者特有の有害事象に対する脆弱性を鑑み、患者安全を保障する高齢化社会の特別なニーズがあることを認識する」と、「患者安全に関する東京宣言」の中で発表されている。

転倒・転落は、医療現場の有害事象の中でも件数が多く、新たな検査や治療、処置が必要となるだけでなく、入院期間の延長や医療費の増加、医療訴訟にもつながることがある。それ故に転倒・転落の予防・防止は、医療機関にとって重要な課題である。

医療現場では、主に看護師が転倒・転落アセスメントツールにより転倒・転落のリスクを評価し、それに応じた看護計画や対応策を講じている。しかし、当院でもそうであるように、転倒・転落は患者側の要因や環境問題など複数の要因が複雑に絡み合っているため、決定的な対応・予防策はなく、転倒・転落の防止に苦慮しているのが現状である。

また転倒・転落は、他のインシデント項目と違い、検査や処置中・車いす移動時などに発生する看護師や医療者が介入中の「介入中の転倒・転落」と、患者が自発的に行動している最中に発生する看護師や医療者が「介入していない転倒・転落」という2タ

医療安全活動とインシデントレポートの変遷

2001年にインシデントクリア委員会が活動を開始した当時は、電子カルテのみならずオランダリングも導入しておらず、全てが伝票と紙運用であった。そのため、各病棟のインシデントクリア委員が紙ベースで提出されたインシデントレポートを1枚1枚

読み込んで分類し、パソコンに手入力で記録してExcelで集計を行っていた。結果、委員会での報告は項目別や部署ごとの件数であった。その後、2013年に電子カルテが導入され、2016年2月にインシデント報告分析支援システム「ePower/CLIP」（以下、CLIP）が導入された（図1）。CLIPは、CLIPReport（クリップレポート…インシデントレポート作成プログラム）、CLIPAnalysis（クリップアナリシス…インシデントレポ

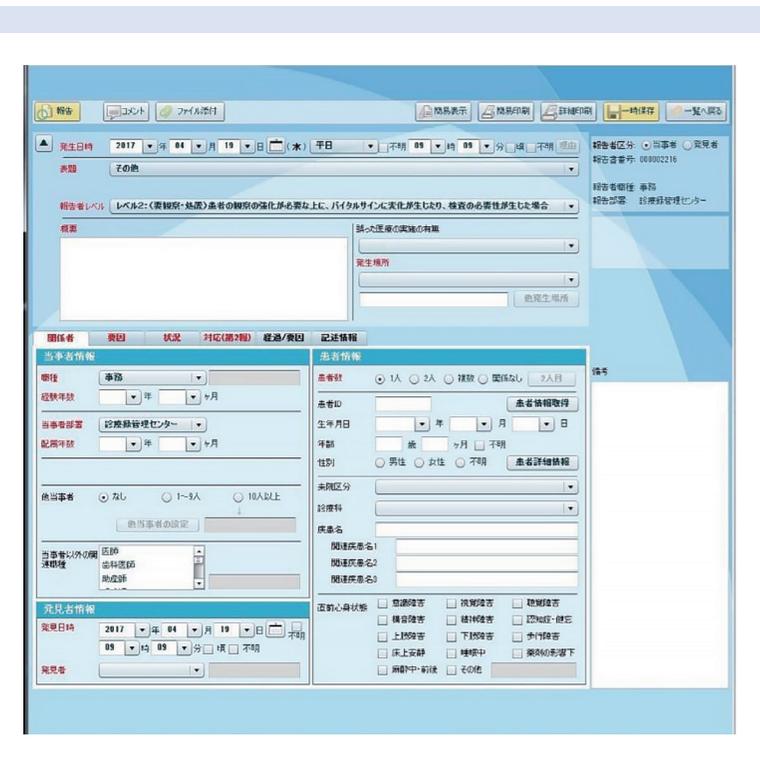


図1 2016年にインシデント報告分析支援システムを導入



図2 インシデントレポートの入力項目全てをExcelデータとして抽出が可能

ート集約・統計分析プログラム）、CLIPFlow（クリップフロー…インシデントレポート詳細分析プログラム）という3つのプログラムで構成されている。当院ではこのシステムを電子カルテシステムと連携させて運用することで、電子カルテ上のボタンより起動できるため別のシステムを起動する必要がなく、作成がスムーズとなった。

しかし一方で、導入後も危険度別件数や部署別件数の集計以外にCLIPに蓄積している各項目データをうまく活用できてはいなかった。そこで、2018年に転倒・転落対策チームの立ち上げに参加した時点でその対策と予防に役立てられるようCLIPのデータ活用を検討し、複数項目を同時に表示できるBusiness Intelligent Tool（以下、Bツール）が活用できるのではないかと考えた。

BツールでCLIPデータを活用

Bツールとは、蓄積した膨大なデータを収集・分析・可視化して経営や業務に活用するためのソフトウェアやツールであり、データの可視化により経営戦略の問題点を抽出したり、現状把握がしやすくなるといわれている。医療界においても、TableauやMicrosoft PowerBI、Qlik Senseの活用が少しずつ浸透してきている印象がある。

私は、2014年に北海道診療情報管理研究会主催のDPCデータ分析セミナーに参加した際にBツールと出会った。このセミナーは「DPCデータ分析環境構築実習」と題した内容であり、機能制限があるものの無料で利用できるクリックテック・ジャパン社の「Qlik view Personal Edition」（以下、QV）を用いて、DPCデータ分析環境の構築と実践を学んだ。